

事務事業名	浄化センター下水道事業団委託事業					☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連	
政策名	総合計画 02	緑豊かな環境と共生するまちづくり				所属部	水道局	所属課	上下水道課
施策名	08	水環境の保全				所属係	管理工務班	課長名	森 章礼
基本事業名	25	水質の浄化				担当者名	村上浩昭	電話番号 (内線)	096-248-1232 1176
予算科目	会計 50	款 02	項 01	目 02	事業	法令根拠	下水道法		
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 ☒ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 年度 ~) ↳ (18 年度 ~ 27 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の概要) 浄化センター改築の設計及び工事に係る日本下水道事業団への委託事業 (業務の内容) ・下水道事業団の委託要請から協定書の締結、現場打合せを含む改築更新の円滑な遂行						総 投 入 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	1,705,750
								都道府県支出金	
								地方債	1,259,310
								その他	
								一般財源	139,940
								事業費計 (A)	3,105,000
人件費	正規職員従事人数	63							
	延べ業務時間	21,900							
	人件費計 (B)	86,943							
	トータルコスト(A)+(B)	3,191,943							

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

浄化センター機械設備及び電気設備の更新

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

同上

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

浄化センター及び汚水中継ポンプ場

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

機能低下や老朽化している施設を新しくし、汚水処理の機能を向上する

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

水質が向上する

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 設計・工事の委託金額	千円
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 浄化センターの箇所数	箇所
イ 汚水中継ポンプ場の箇所数	箇所
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 処理能力を維持し、停止すること無く運転出来た年間の割合	%
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 市内河川のBOD(測定地点)基準達成率	%
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

	単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入 量	国庫支出金	千円		57,530	149,470	107,800	144,650	185,900
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円		42,360	113,330	79,380	106,500	136,890
	その他	千円		4,710	8,200	8,820	11,850	15,210
	一般財源	千円			4,400			
	事業費計 (A)	千円	0	104,600	275,400	196,000	263,000	338,000
	正規職員従事人数	人		4	7	7	7	7
	延べ業務時間	時間		1,200	2,300	2,300	2,300	2,300
	人件費計 (B)	千円	0	4,764	9,131	9,131	9,131	9,131
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	109,364	284,531	205,131	272,131	347,131
活動指標	ア 千円			104,600	275,400	196,000	263,000	338,000
	イ							
	ウ							
対象指標	ア 箇所			1	2	2	2	2
	イ 箇所			0	2	2	2	2
	ウ							
成果指標	ア %			100	100	100	100	100
	イ							
	ウ							
上位成果指標	ア %			100	100	100	100	100
	イ							
	ウ							

事務事業名	浄化センター下水道事業団委託事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	------------------	-----	-----	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

◎須屋浄化センターについては、昭和56年に供用開始されたことにより、各施設が耐用年数の経過と共に所々で老朽化及び機能低下が見られるようになり、その問題点を改善・解消するため、平成18年に改築更新を下水道事業団に委託した。また、塩浸川浄化センターについては、平成4年に供

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

◎開始前に比べると更新された施設については、機能低下等の問題点が解消され、支障なく円滑な維持管理ができるようになった。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

◎特になし

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ ◎施設を新しくすることにより、汚水処理化円滑に行われ、市民の生活環境が保全され、又放流水質が安定する。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ ◎施設を改築更新し汚水処理を円滑に行うことにより市民の生活環境の保全及び公共水域の水質保全につながり、その応分の使用料も賦課されているので、妥当である。
	③対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ ◎対象は、機能が低下した施設及び対応年数が経過した施設であり、意図もこの汚水処理施設を新しくすることであるので、適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ ◎汚水処理施設を新しくすることにより、その施設が停止することなく、汚水処理が円滑にできる。
	⑤廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ ◎本事業を廃止すればこの汚水処理施設は老朽化し汚水処理が円滑に出来ないため、事業の廃止は、考えられない。
	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】⇒ (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ ◎下水道施設は、大規模になる設備が多く、専門的なものになるため、その知識や技術が豊富な下水道事業団にすべて委託している。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ ◎同上
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ ◎受益者より使用料を応分負担して頂いているので、適切である。

合志市

事務事業名	浄化センター下水道事業団委託事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	------------------	-----	-----	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

・効率的に計画的な改築更新を実施する必要がある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

改築事業を進めていくには専門的な知識を必要とし、建設も多額の費用がかかるため、委託業務により進めている。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			○
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

改築工事を実施するには多額の費用を要するが、施設が存在し、円滑な維持管理を行うためには必要不可欠なものであるので、効率的に計画的な改築工事を実施する。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項